

第23号

SSH
Super Science High school

緑高 SSH

令和7年度
夏のST紹介号

2025年10月18日



ふくしま学宿(7月21日~23日)

福島県の浜通り地域で東日本大震災や福島第一原子力発電所事故などについて学びました。震災当時の影を未だ残しながらも、新しいエネルギー産業に力を入れる姿に「復興」という言葉の意味を考えさせられました。当時、原発に勤めていた方や現在復興に携わっている方など、様々な立場からのお話を聴き、福島県立ふたば未来学園高校の生徒との交流も経て、「今の自分にできることは何だろう?」と答えのない問いに挑む生徒の姿が印象的でした。地域全体で一つの課題に取り組む、福島のあたたかい雰囲気に、人と人とのつながりの大切さを学び、このツアーで自分事にした原発問題に対し、高校生という立場でどのように関わっていくか模索し続けたいという決意を新たにしました。



鳥取スタディツアー(7月30日~8月1日)

「鳥取 海・星・砂のスタディツアー」を実施しました。初日から鳥取砂丘ナイトウォーク、シーカヤック・シュノーケリング体験、さじアストロパークでの星空観察と、とても活動的なツアーでした。特に緑高生にとって印象的だったのは、さじアストロパークだそうです。地べたに寝そべて流れ星を数えたり、夜中まで天体望遠鏡を覗いて様々な星を観察したり、正に自然のプラネタリウムを経験できました。観測当初は曇っており、「星が見られないかも…」という心配がありましたが、夜が深まるにつれて満点の星空が私たちの頭上に広がりました。肉眼で見ることできた天の川は、今でも鮮明に瞼の裏に広がります。このツアーは鳥取県立鳥取西高校との共催で実施しています。2泊3日を共に過ごし、生徒たちは学校を越えたつながりを持てたのではないのでしょうか。このツアーをきっかけに、今後も親交を深めていってほしいと思います。



ニュージーランド海外研修(8月8日~23日)

ニュージーランド海外研修は、今年2回目を迎え、26名(2年生9名 1年生17名)が参加しました。留学先は、本校の姉妹校となった現地校 Mount Roskill Grammar School の授業に参加する、完全ホームステイの計2週間の研修となりました。生徒たちからは、「もっと世界に目を向けて生活してみたいと思った」「新しいことにトライする心が強くなったと思う。ニュージーランドの自然の豊かさを見て、自分は将来、自然環境に関わる仕事につきたい」「オークランド大学に行って海外の大学への興味も湧いた」「今回の研修で、英語を話すことがすごく楽しい!と感じたので、ディベートや、英語スピーチもやってみたくなった」などの、前向きな感想が多く寄せられました。この研修が、生徒の財産となり、将来につながることを願っています。



釧路湿原スタディツアー(8月15日~17日)

釧路湿原スタディツアーに生徒7名が参加しました。今回も湿原の保護に長年関わってきた釧路湿原のスペシャリストである新庄久志さんに現地でご案内をいただきました。初日は湿原を囲む丘陵帯の一部であるキラコタン岬の周辺を散策しました。舗装道路の脇からエゾシカの通過道を見つけ、藪の中を進んでいきました。崖の下から染み出る水の冷たさに驚き、それが30年の時を経た雨であると説明を受けると生徒たちは感嘆の声をあげました。2日目はいよいよ湿原の中を歩きました。ハンノキ林から歩を進めると風景が少しずつ変わり、足元の水のpH や電気伝導度を測定し、水質の変化と植生の変化の考察を試みました。最終日は蛇行する川をカヌーで下りました。曲がるたびに右岸と左岸の風景が入れ替わるのは河川が運ぶ土砂の影響を受けてのことだそうです。エゾシカやタンチョウなどの野生動物も姿を見せてくれました。生徒の事後アンケートからは「この自然を守っていくにはどうすればいいのかを考えることで、思考力も身についたのではないかなと思う」「聞くだけでなく見ることによってよりその土地の植物などの変化が実感でき自然に対するより深い知識がついたと思う」といった感想があげられました。

